

## 地方の展望

平野整形外科 平野 直彦



最近の世の中は移り変わりが早く、我々が住んでいる地方はどうなっていくのだろうかという不安を、多くの方がもっているだろうと思います。こういう問題に見識のない私が、素朴に展望してみました。

この15年程で世の中が非常に変わってきたと思います。特にバブル崩壊後、未婚率が増えてきました。昔は30歳を過ぎると大部分は結婚していたように思いますが、今は40歳以下の未婚率が60パーセント程だそうです。異常な事態になってきました。何故このようになってきたかは良く分かりませんが、バブル以後不景気となり企業は生き残りのため人員整理、非正式社員の雇用を増やし、また工場の海外移転などを行いました。競争社会は一段と加速されてきました。その結果企業の雇用条件、労働条件も次第に厳しくなり安心して結婚できなくなったのも一つの原因といわれています。そのため我々の地域でも子供が半減したのではないかと思う。高齢少子化は、ますます進んでおります。

バブル崩壊後橋本政権ごろより構造改革が叫ばれていましたが、小泉政権が改革の実行を精力的に始めました。官僚独裁、利権集団の横暴を排除し、無駄な公共投資を抑制し、官から民へと道路公団、政府系企業の民営化を行い行政のスリム化を図ろうとしました。また「税源移譲、地方交付税および補助金の減額」の三位一体の改革をおこない市町村合併を推進し、中央集権国家の色彩が強かった日本を行財政改革と共に地方分権国家に変えて小さな政府をめざしているのでしょうか。この路線に対してまだ抵抗は強いのですが、これからもこの地方分権化の方向は変わらないと思います。

将来、道洲制か県単位か分かりませんが地方分権となってきたと、地方自治体が地方政府の役割をはたしていかなければなりません。経済基盤のしっかりした自治体ですと、ますます活性化し問題はないのですが、我々のような地域は、若者が都会に流れ、過疎が著しく、そのうえ高齢少子化で、これといった産業もないところは生き残りが厳しいかもしれません。どうしたら我々が生き残っていくみちはあるのでしょうか。国は地方分権化して地方を活性化させようとするのではないと思います。グローバル化で競争の激しくなった世界において国の力を発揮させるために、過疎地域へのむだな投資を抑制し、効率のよい所に投資する方針だと思います。そのためますます過疎は進むでしょう。

都会は人が一杯で、にぎやかで、便利でよいところもありますが、住んでいる家は狭く、自然は少なく、息がつまりそうです。反面、田舎は人が少なく寂しい面はありますが、土地には

余裕もあり、家は庭つきの広い一戸建て住宅に住んでいる人が多くまた水も空気もきれいで、自然も一杯です。固定資産税も安く、自分が食べる程度の野菜栽培もできます。地方は人口も個人所得も次第に減ると思いますが、田舎のよいところを感じながら楽しく生きられるのではないかでしょうか。

